

大道芸アジア月報 2022 年 1 月

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」
vol. 33、no. 1
編集・発行人 上島敏昭
〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2
春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

- 大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>
- 大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
- 名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>
- しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>
- ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>
- お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com
- 東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/
- 仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

★浅草雑芸団の予定

はるこま七福神めぐり 1月3日（月）

10：00～14：30 ごろ、隅田川七福神および向島2丁目を中心に門付

14：30～15：30 ごろ、弘福寺門前にて祝福芸づくし

★今月の大道芸公演

△THE 三河 MANZAI <https://ansyobunka.jp/rekihaku/collection/manzai/co-manzai.html> ○安城市歴史博物館

●2021 年 12 月 4（土）～2022 年 1 月 16（日）

実演①：1/8 10:30～ 安城農林高校郷土芸能部

実演②：1/9 13:30～ 下山三河万歳保存会

実演③：1/16 14:00～ 三河万歳レクチャー公演 安城の三河万歳保存会

△KYOTO 大道芸祭 <https://npokpa.com/KyotoStreetProject/fes2022/> ○ゼスト御池 地下街

●1月2（日）サンキュー手塚、シンクロシティ、ダメじゃん小出、めりこ、リスボン上田、ロッキィ

3（月）KEIKO、シンクロシティ、すごろく、ちゅうサン、ヒョウガ、油井ジョージ、リスボン上田、ロッキィ

△ときわファンタジア in ゆめ花大道芸 <https://tokiwa-fantasia2021.com/index.html#daidoge> ○山口県宇部市・ときわ遊園地

●1月2（日）～16（日）

（日替わりで出演）Mr.NAME、堀川玄太、大道芸人あきひろ、マジシャンようじ、わくわくプープ、パーティーボーイ金太郎、スーパー大道芸人 KAJI、マジシャンいっしん、大道芸人れもん

△伊勢・おかげ横丁新春奉納芸能 <https://okageyokocho.com/main/2021/12/25/hounougeinou/> ○おかげ横丁

●1月15（土）伊勢大神楽（桑名市）

●1月22（土）伊勢万歳（鈴鹿市）

●1月23（日）浜田大山車の舞獅子（四日市）

△にぎわい座新春特選ニッポンの芸 <https://nigiwaiza.yafjp.org/perform/archives/23341> ○横浜にぎわい座

●1月15（土）14：00（開場 30 分前）

尾張萬歳、立川真司（鉄道ものまね）、水戸大神楽・柳貴家正楽社中、元はじめ（和妻）、タブレット純（ムード歌謡漫談）

¥3200（中学生以下¥800）

△シルク・ドゥ・ながめ ○ながめ余興場（群馬県みどり市大間々町）

●1月16（日）13：30 / 16：30 （各回とも開場は 30 分前）

出演：奥澤秀人、白石あゆ美、森田智博、油布直輝

¥4700（全席自由）

予約：1/16 13：30 <https://cdo.thebase.in/items/56213173>

16：30 <https://cdo.thebase.in/items/56213183>

△説経浄瑠璃鑑賞会 http://sekkyou.s371.xrea.com/wp-content/uploads/2021/12/poster_page-0001.jpg ○成増アクトホール

●1月22（土）13：30（開場 30 分前）

出演〈演目〉：三代目若松若太夫〈小栗判官一代記〉、古谷和子〈説経をぐり〉

入場無料（450 名 要申込み：多数の場合は、抽選）

下記に往復はがきで、①説経浄瑠璃申込み②住所・郵便番号③氏名（ふりがな）④生年月日⑤電話番号を記入）

申込み先：〒173-8501 板橋区板橋 2-66-1 板橋区教育委員会事務局生涯学習課文化財係

Web 申込み：<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bunka/bunkazi/1021971/1034990.html>

△シシとなるウマとなる〜ふるさと東京の郷土芸能体験 <https://shishiuma.peatix.com/> ○イイノホール

●1月23(日) 13:30-16:30

出演: 荒馬座、田楽座、八王子車人形西川古柳座、目黒流貫井噺子保存会、ワークショップ受講の子どもたち

入場無料(要申込み・往復はがきで申し込み(往信面に①氏名②住所③電話番号④年齢、返信面にご自身の住所を記入))

申込み先: 〒106-0032 港区六本木 4-3-6-206 (公社) 全日本郷土芸能協会

Web 申込み: 観覧フォーム <http://forms.gle/eDsAT5X49rc2Eb3u8>

△ダメじゃん小出の黒く塗り! 新春 18 きつぷ <http://nigiwaiza.yafjp.org/> ○横浜にぎわい座(のげシャール)

●1月29(土) 14:00/18:00 (各回開場は30分前)

前売¥2100(当日¥2600)

電話: 045-231-2515 <http://nigiwaiza.yafjp.org/>

△GachaGacha ぱふおーまんす図鑑 <https://jugglertorumari.com/ggpz/index.html> ○せんがわ劇場(東京都調布市)

●1月29(土) 30(日)

A プログラム 1/29 (14:30 開演) 進行役=ヤノミ(小心中)。出演: Clown troupe、ガンビー魁斗、Close huse、CHIDHA、YEN TOWN FOOLS、しろみときみ・あいあい、Kaja

B プログラム 1/30 (11:00 開演) 進行役=サブリミット。出演: 歩、ふくろうじ、向川大河、デュオ アルッシーボ、サブリミット、かいしゅー、松鶴家天太

C プログラム 1/30 (16:00 開演) 進行役=堀江のぞみ(シルヴプレ)。出演: ののの、鈴木仁、どん・ぺんた、ちはる、プリセット、clown レオ、サクノキ

各プログラムにつき前売¥3500(当日¥4000) 3プログラムセット¥9500

予約フォーム: https://jugglertorumari.com/ggpz/reservation/reservation_main.php

△亀戸大道芸 <https://www.kameidodaidoge.com/> ○亀戸十三間通商店街

●2月6(日)

△高知大道芸フェス 2021 <https://kochi-daidougei.com/> ○高知市中心商店街

●2月26(土) 27(日)

Ideo 2、KANA∞、加納真実、桔梗ブラザーズ、シルヴプレ、ゼロコ、ダメじゃん小出、張海輪、to R mansion、バーバラ村田、Perfoemer SYO!、Fuuny Bones、三雲いおり、Mr.BUNBUN

若林正の

食って極楽

老舗の洋食

・・・浅草・「リスボン」

浅草雑芸団を名乗っている癖に、なかなか浅草に出ることの無いワタクシだが、先日日本馬亭で上演されたお芝居を見物に出向いた。少し早めに到着してランチと洒落込む。コロナも一段落したせい、久しぶりの六区はけっこう人通りがある。選んだのが「リスボン」。六区通りの老舗の洋食屋さん。この界隈の店は、やはり観光名所ということでお値段が張るイメージで敬遠気味だったのだが、思った程高くない。

女房と注文したのが、カキフライライス¥1200 とチャプスイ¥300。チャプスイとは白菜やモヤシニンジン等の野菜を炒めて作ったスープのこと。前にここで食べたのは三十年くらい前かな? お昼時だがお客は三人ほど。年輩のおっさんがビール飲みつつオムライスを食べるのが旨そうだ。

さて到着したカキフライ、ラードのうまそうな香りが食欲を刺激する。まずチャプスイをすするととてもあっさり薄味で野菜はしゃきしゃきと歯応えを残して前菜という感じ。カキフライはけっこう大ぶりのカキで、絶妙な火入れ加減が良い。ウスターソースで食べると何とも云えず、んまい! 流石のお味。

ただワタクシには量が少し物足りない感じで、思わずオムライスを! と言おうとしたが、グッと思い止まる...も少し稼がないとそんな贅沢は無理なのです...でも満足の浅草ランチでありました。



■浅草名物・チャプスイ

○まだけっこう食える度=5 ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり
☆その 362

コロナ禍二年目、年末の大道芸

上島敏昭

まさかコロナパンデミックが二年つづくとは思ひもなかった。しかし大道芸に関しては、一年前とはかなり雰囲気が変わってきた。この11月から年末にかけて、コロナウイルスが一段落の様相を呈し、大道芸系の催しはつぎつぎと行われている。今回はコロナ時代二年目、現時点での大道芸状況を記

しておきたい。

この一か月ばかりの短期間に、先ほど述べたようにかなり多くの催しが行われた。

催しには二種類あって、一つはこれまで例年行われてきた祭や行事など。コロナ感染者が爆発的な拡大状況にあった昨年末は、泣く泣く中止せざるを得なかった年中行事である。

今年は主催者が早くから準備して、感染防止策を講じて、縮小するにしても開催するのだと意気込んでいたところ、感染が一息ついたため、予定通り行ったというもの。

もう一つは、政府の補助金を獲得した公演や催しで、これは実施時期が期限付きであったらしく、この時期にどっと重なった。

昨年は外出さえはばかれたのに対し、今年は前記二つの系列の催しや行事が実行されたため、感覚的には、この年末はかつてないほどの忙しさ、まさに追いまくられるという印象になっている。

◇AFF について

まず、補助金の催しについて。いろいろな省庁でさまざまな補助をしている

らしいのだが、わたしのような末端まで伝わってくるものは、それほど多くない。そのなかでイベント、催し物、公演などのチラシで一番多く目にしたのは、「AFF」と記されているものである。

文化庁の事業で、要項をみると、正式名称を「ARTS for the future!」といい、「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」とある。「公演、演奏会、コンサート、ライブ、展覧会等」の「積極的な取組」に、上限が「600万円、1000万円、1500万円、2000万円、2500万円」を補助するというから、かなり大掛かりな催しも対象になっている。私は応募していないので詳しいことは分からないが、どうやら継続的に有料の自主公演をおこなっている人や団体（要するに「プロ」の人たち）が、より積極的な取り組み、たとえば公演をオンラインで配信するなど、に対しての補助金ということだ。

今月の大道芸系の催しで目についた「AFF」と記されたものを挙げるなら、「志免祭（大道芸・クラウン芸・小劇場）」（12月12日、19日）、「空転劇場（ジャグリング）」（12月13日、14日、16日、20日）、「和勢津（ちんどん・大衆演劇・幫間）」（12月21日、22日）、「とちか青空大道芸特別公演～サーカス小屋のクリスマス（サーカス芸）」（12月24日）、「ひのフェス（大道芸）」（12月25日）、「おながわ大道芸（大道芸）」（12月25日、26日）など。これら以外にも、私が知らないものもあるだろうから、まさに目白押し。



これらの催し、主催者が補助金目当てでやっていたというより、いつもやっていた

活動を、「補助がもらえるなら」と、パワーアップさせているものがほとんどで、主催者の意欲を感じた。またその出演者も同様で、補助金があるうがなかろうが、活動を続けている人たちである。実際、パントマイムのシルヴプレなどは、これらの催しに出演しているだけでなく、毎月、2、3本は自主企画の劇場公演を続けていた。本人たちもだが、そうした活動を支えてくれる、あるいは協力してくれるよい仲間がいて、強いネットワークを持っているということを改めて知った。来年は補助金がなくても、これらの催し、いくつもやるのだろうと思われる。

◇年中行事・伝統行事

もう一つの、昨年ではできなかった年中行事を、今年は再開したものもいくつかあげておきたい。

私が見に行ったものでは、伊勢大神楽・桑名増田神社総舞（12月24日）。昨年はかなり早い段階で中止と発表していた。それこそ何十年とつづいている行事だけに驚いたが、考えてみれば当然の決断であろう。なぜなら、この催しでコロナ感染者が出るなどということになったら、正月からの回壇が出来なくなってしまう。死活問題だ。涙をのんでの決断に違いない。事情は今年も同様だけに、昨年のように中止だろうと思っていたら、直前になってどうやらやるらしいという情報が入った。電話で確認すると、時間は1時間、実演する境内には観客も入れるが、例年のように境内いっぱいに入ってもらうことはせず、人数を限り、場合によ



れば入場制限をする、また飲食も禁止、とのこと。コロナの感染者数が三重県ではゼロの日が続いていたのも、開催を決めた要因の一つではあるだろう。

二年ぶりに訪れた桑名は、駅が新しくなって途惑った。また近くの観光スポットである「なばなの里」も「長島温泉」も営業しているのかいないのか、わからないような状態で、なんだかアウェイ感たっぷり。それでも増田神社に行くと、いつもの顔をみることができ、お互いマスク越しではあっても会話がはずみ、例年通りの温かさが蘇った。今年は時間は短かったが、若手、まだ十代の若者が初登場で芸を披露して、新時代到来という印象をもった。わずか1時間そこの催しだけのために東京から出かけるというのは、我ながらどうかとも思うが、やはりナマで芸を見、人と話すのは本当にうれしい。良い催しでした。伊勢大神楽の各組は、新年一日から、例年通り、門付を始めることになる。



門付け芸では徳島の阿波木偶箱まわし保存会が、このコロナ禍で講演活動がなくなった。その機をとらえて、廃園になった地域の保育所を伝承館・資料館として改装をはじめた。この3月3日にオープンを目指しているという。こちらも例年通り、正月から門付の旅に出ようだ。

各地の万歳のなかでは、公演情報に記したが、愛知県安城市の安城歴史博物館で「THE 三河 MANZAI」と題した展示をおこなっており、休日には実演も行われている。最終日の1月16日にはレクチャー公演と銘打って安城市三河万歳保存会が実演も披露すること。感染症対策として20名限定というから贅沢な催しだ。知多市の尾張萬歳は、1月15日に横浜にぎわい座の「新春特選 ニッポンの芸!」という公演に出演する。ほかには水戸

大神楽の柳貴家正楽社中も出演する。

また同じく尾張萬歳の今枝社中は 1 月 3 日に名古屋市の徳川園で例年通りの公演が予定されている。越前万歳は越前市の味真野神社と商工会館で初舞を披露するようだ。伊勢万歳は伊勢神宮の「おかげ横丁」で 1 月 22 日に披露予定となっている。加賀万歳や秋田萬歳も例年は初舞を行っていたが、新年はどうだろう。



◇シシとなる・ウマとなる

さて、ここまではコロナ禍でも元気に活動している、あるいは活動を再開した話題を書いたが、二年間も祭や行事をやらなければ伝承が途絶えてしまいかねない伝統芸能もたくさんあるのではないだろうか。伊勢大神楽などはコロナの数年前から積極的に若い後継者を募集していたおかげで、なんとか育ってきたが、それは稀有な例ではないかと思う。

そうした伝統芸能の後継者育成をテーマにした補助事業についても紹介しておきたい。

1 月 23 日に東京のイノホールで「シシとなる ウマとなる～ふるさと東京の郷土芸能体験」と題されたワークショップと公演が、文化庁の「子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業」の補助を受けて行われる。ワークショップを体験するのは中学生までの子どもたちと付添いの親。体験する芸能は、江戸の獅子舞と荒馬踊り。12 月中旬に体験を済ませ、1 月のお正月明けにオンライン稽古をして、本番へ助走をつけるのだという。

私は当日の司会を担当させていただくことになったので、ワークショップを見学させてもらった。



獅子舞の指導は田楽座さん。信州伊那谷を拠点に活動する伝統芸能の実演集団である。各地のお祭りの芸能を得意としていて、獅子舞も重要なレパートリーとのこと。祭りで使用する獅子頭は小中学生には重いので、段ボールで作った獅子頭を使用する。初めに実演したあと、細かく指導していく。時間は 1 時間 30 分。一人が実演しながら説明し、メンバーが体験者の中に入って、まさに手取り足取り教える。しかし教え方がうまいのに舌をまいた。つまり普通に獅子をかぶって動くだけでは弱弱しいが、どうすれば力強い動物にみえるのか。非常に具体的で、まさしく腑に落ちるという感じなのだ。たとえば、獅子頭の位置。おでこより少し上に構えて顎を引き、少し背中を丸める。おでこより低いと獅子をもつ人間の頭が獅子の背中に飛び出て、ラクダになってしまう。また背中を丸めすぎると動きにくい。よい位置を探すこと。次に、その構えで歩いてみる。皆が一行になったやっっているのを外から眺めると、なるほど言われた通りにやっっている子は獅子に見える。



そこで新たにただ歩くだけではなく、歩きながら獅子頭をボクシングのパンチの様にワンツーワンツー…と繰り返しながら歩くと、同じ速さで歩いても勢いが出ると教える。やっっているのをみると、確かにその通

りだ。見得の切り方、山越しの足運びなどなど。本当に勉強になった。聞けば獅子舞は教えてほしいと依頼が多く、ワークショップもずいぶんやっっているそうだ。最後に段ボール獅子の製作キットがプレゼントされ、子供も付き添いの父親・母親も大喜びで帰って行った。



翌週は荒馬座さんの荒馬踊りのワークショップだった。東京・板橋区を拠点に活動する民族歌舞劇団で、座名にもなっている荒馬踊りは一座の代表演目。青森県今別町の荒馬踊りをアレンジしたものという。岩手県から青森県にかけての南部地方に伝わる駒踊りは、乗馬した人馬一体の姿で踊る集団芸で、馬を御しながら集団で元気よく踊るのが特徴である。集団芸をどのように短時間で作り上げるのか、興味深々だったが、こちらのワークショップはさらに洗練されていた。まず車座に座ってもらい、自己紹介。つぎに二組にグループ分けしそれぞれのリーダーを決める。そしてグループごとに動きを教える。二つの集団がそれぞれのリーダーを先頭に飛び跳ね、走りまわるのが芸能の眼目である。1 時間 30 分みっちり動き回る。子供たちは元気よくやっっているの、同じ動きをすこし真似してやってみた。動きは簡単だが大きくジャンプしたり背伸びしたりで、たちまちネを上げた。それでも後日、身体が痛くて往生した。荒馬踊りも腰付け馬のキットをもらって、こちらでも大喜びで帰って行った。

当日は、このワークショップ体験者の発表と田楽座、荒馬座の実演もある。そしてほかに東京の民俗芸能として八王子の車人形と小金井の貫井囃子の実演もある。

まだ観客席には余裕があるということなので、ぜひ申し込んでいただきたい。

